

熊野磨崖仏 岩壁の仏教芸術

最も畏敬の念を抱かせる石彫彫刻のうち、2 つが豊後高田市にあります。これらは熊野磨崖仏であり、仏教の神様についての記念碑的な浅い浮彫です。これらの彫刻を鑑賞するには、山中の岩壁に位置しているため、一定の努力が必要になります。ルート上にある石段は、でたらめに並んだ石の寄せ集めと思われ、登るにつれて急になっていきます。地元の伝承によるとこの石段は、鬼が急いで作業を行い、一晩で築いたものです。この鬼は、人間の肉を食べること望んでおり、石段と引き換えにそれを許そうと約束されていました。しかし石段を築いた報いは、努力に値するものです。2 つの像は素晴らしく、孤立した場所であることから、さらに目を見張るものになっています。

まず目に留まる磨崖仏は、不動明王です。高さが 8 メートルあり、おそらく平安時代末期（794 年から 1185 年）に彫られたものです。右の方に進んでいくと、はっきりとして品のある浮彫がありますが、これは大日如来です。宇宙を司る神と呼ばれることがあります。この石彫は約 6.8 メートルあり、平安中期に彫られました。頭上には集中して彫られた 3 つの曼陀羅が確認できます。この 2 体の磨崖仏は、密教における圧倒的な偶像です。密教では、困難な修行と密教の教えを実践することで、極楽浄土に行けるされています。もう少し石段を登ると神社があります。またこの場所は、ロングトレイルのルートの 1 つであり、登山口でもあります。

（注記：登山の際は、受付で杖を貸し出しています。登り下りの両方で役立ちます）